

《彫刻》 山本眞輔「人間讃歌」「PACE」シリーズなど 約34点

《日本画》 山本眞希 金箔を用いた花の描写 約6点

《洋画》 山本澄江「MY LANDSCAPE」シリーズ 約22点



総数 約62点
古川美術館 約27点
爲三郎記念館 約35点

2026.5.22[金] ▶ 7.20[月・祝]

古川美術館・分館 爲三郎記念館 特別展「山本眞輔・澄江の世界 - 祈りの情景」

開催日時 2026年5月22日(金)～7月20日(月・祝) 10:00-17:00
 休館日 月曜日 ※但し7月20日は開館
 会場 古川美術館・分館 爲三郎記念館
 主催 公益財団法人 古川知足会
 後援 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、西尾市教育委員会、
 中日新聞社、CBCテレビ、東海テレビ放送、スターキャット株式会社、名古屋日伊協会
 入館料 一般1,200円 高大生500円 中学生以下無料 ※古川美術館と爲三郎記念館の共通券

作家来場日 アーティストトーク開催日 各日14:00
 山本眞輔 5月22日(金)、6月14日(日)、7月11日(土)
 山本澄江 5月22日(金)、6月 5日(金)、6月27日(土) ※山本澄江は6月14日、7月11日も来場

《 3つのテーマ でご紹介 》

- 1 古川美術館 1階 「山本眞輔 人間讃歌 —平和を祈りて—」
- 2 古川美術館 2階 「山本澄江 —MY LANDSCAPE 祈りの道—」
- 3 分館 爲三郎記念館 「それぞれの祈りのかたち—山本眞輔・澄江・眞希—」

古川美術館では、日本藝術院会員として日本の具象彫刻を牽引する山本眞輔と、瑞々しい草花を描く洋画家・山本澄江。芸術家夫妻の近作の数々を、初公開作品を交えて紹介。2017年古川美術館「山本眞輔展」、分館爲三郎記念館「山本澄江展」に続く第二回目の展覧会です。爲三郎記念館では、山本夫妻の作品とともに、娘・眞希が金箔を用いて柔らかな筆致で花を描いた日本画を展示。三人三様の表現が響き合う“山本家の美の系譜”をご堪能ください。

古川美術館 1階展示室

1

「山本眞輔 人間讃歌—平和を祈りて—」



清らかな若い女性像により、旅先で得た心象風景を作品にした「心の旅」シリーズの他、平和を祈る「PACE」「人間讃歌」シリーズなどを展開。本展では、米寿を迎えた今も精力的な制作を行う山本眞輔の「心の旅」「人間讃歌」「PACE」シリーズなどの近作と、初公開となる「森の情景」シリーズの新作を紹介。 “祈りの心”は、透明感あふれる女性像となって静かに佇み、生命や自然、人との対話から生まれた深い祈りが、凜とした存在感となって立ち上がります。

彫刻家・山本眞輔(1939～) 約34点出品

日本芸術院会員、公益社団法人日展顧問、公益社団法人日本彫刻会常務理事、白日会副会長、名古屋市立大学名誉教授、西尾市名誉市民

西尾市一色町出身。日本彫刻界を代表する山本眞輔の彫刻は、駅や公園など200を超える数多くのパブリックスペースに設置されています。

東京教育大学(現筑波大学)在学中に日展初入選後、1999年日展内閣総理大臣賞、そして2004年に日本藝術院賞を受賞し、2008年には日本藝術院会員に就任。二度のイタリア留学を通じた現代イタリア彫刻との出会いから、自身の進むべき道を具象表現と定めて追求しています。



「心の旅」シリーズ

イタリア留学中に始めた山本眞輔のライフワークとなっているシリーズ。世界中で訪れた街、出会った人たち、印象に残った出来事や風景などの印象を、心象風景として彫刻にしたものである。



「心の旅—風に祈りて—」
2017年 185×90×70cm



「心の旅—光の舞—」
2018年 180×100×50cm



「心の旅—古都幻想—」
2020年 170×107×57cm

「人間讃歌」シリーズ

平和を祈る思いを彫刻で表現したもの。



「人間讃歌—平和を祈りて—」
2022年 150×80×80cm



「人間讃歌—明日を祈りて—」
2023年 160×110×70cm

「黎明の祈り」シリーズ

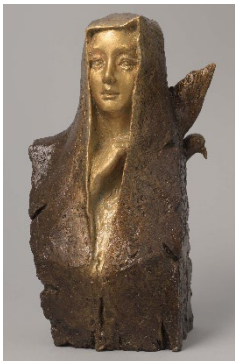
全ての命の育みを未来へとつなぐ祈りのかたち。



「黎明の祈り—いのち育む智—」
2019年 180×55×55cm

「PACE」シリーズ

PACE(パーチェ)はイタリア語で「平和」(英語のpeace)を意味する。スペイン・バルセロナ近郊のモンセラットの風景が源泉となっている。



「PACE—鳥の歌—」
2024年 67×40×24cm



「PACE—森の恵み—」
2025年 84×43×30cm

「森の情景」シリーズ

新作初公開

PACEシリーズにつながるシリーズで、モンセラットの山々の風景の印象から出発した。生あるもののはかなさと、悠久の自然を表現している。



「森の情景—虹—」
2026年 40×50×30cm



「森の情景—冬—」
2025年 45×46×22cm



鮮やかな色彩による四季折々の草花

水彩・アクリル・ペン画

瑞々しい存在感を放つ草花は、いずれも草花が咲く季節を待ち望み、草花を目の前にしてそれぞれ異なる自然の形を写し取っています。下絵を作ることはせず、頭の中に完成図を想定しつつも、描いていく中で浮かぶインスピレーションや変化を楽しみながら、植物のいのちの美しさを表しています。

本展では「祈りの道」シリーズの近作と、初公開となる新作の数々を紹介します。

洋画家・山本澄江(1945～) 約22点出品

夫である彫刻家山本眞輔を支えながら、心象風景に植物や人物を組み合わせた他に類を見ない印象的な絵画を描き続けています。愛知教育大学美術科時代よりペン画の魅力に取りつかれ、イタリア国立ローマアカデミア留学を経て、第一回上野の森美術館「日本の自然を描く展」(1988年)では文部大臣奨励賞を受賞するなど、高い評価を得てきました。

1998年から始まる「祈りの道」シリーズでは、アクリル絵の具で描いた色彩豊かな季節の草花を、ペン画による心象風景と組み合わせて表現しています。アクリルガッシュの豊かな色彩と繊細なペン画が織りなす静謐な風景には、草花のいのちの美しさや〈生生流転〉の気配がそっと息づきます。



山本澄江「MY LANDSCAPE —野の花讃歌—〈冬〉〈春〉〈陽春〉〈夏〉〈秋〉〈晩秋〉」 2022～23年 各145.5×72.7cm



山本澄江「MY LANDSCAPE
—野の花物語 いのち華やぐ季」2024年
140×160cm



山本澄江「MY LANDSCAPE
—野の花物語 いのち実る季」2025年
140×160cm



山本澄江「MY LANDSCAPE
「祈りの道」—巡るいのち[3月]」
2023年 直径50cm

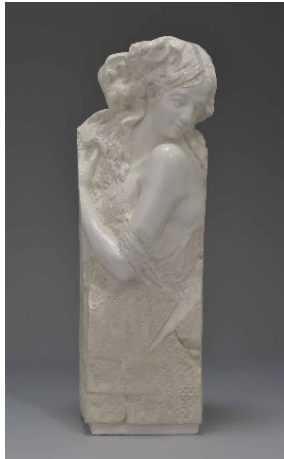
「それぞれの祈りのかたち — 山本眞輔・澄江・眞希 —」



数寄屋建築の分館爲三郎記念館には、山本眞輔・澄江夫妻の作品とともに、夫妻の娘で日本画家・山本眞希の新作、近作も出品します。彫刻、洋画、日本画と異なる世界で活躍する親子の競演をお楽しみください。



山本眞輔
「PACE—森に祈りて—」
2024年



山本眞輔
「シラク—サの風」
2016年



山本澄江「MY LANDSCAPE
「祈りの道—野の花に祈りて—」
2025年 130×80cm



山本澄江「MY LANDSCAPE
「祈りの道—[夏の萌し]—」
2023年 各40×17cm

夏の萌し

日本画家・山本眞希(1970～) 約6点出品

日本画家・山本眞希は、山本眞輔・澄江夫妻の娘であり、爲三郎記念館・太郎庵襖絵「太郎庵椿」の作者。金箔を用いて繊細な筆遣いで花を描いた新作、近作を出品。



山本眞希「月下美人」2025年
円径60cm



山本眞希「Lycoris」2025年
円径33cm



《参考画像》
山本眞希「太郎庵椿」(部分)
爲三郎記念館太郎庵襖絵 1996年

広報用写真

画像データご希望の場合はご連絡ください。メールにてお送りします。



山本眞輔「心の旅—風に祈りて—」
2017年 185×90×70cm



山本眞輔「心の旅—古都幻想—」
2020年 170×107×57cm



山本眞輔「人間讃歌—平和を祈りて—」
2022年 150×80×80cm



山本澄江「MY LANDSCAPE
—野の花讃歌—〈陽春〉〈夏〉」2022～23年
各145.5×72.7cm



山本澄江「MY LANDSCAPE
—野の花物語 いのち華やぐ季」2024年
140×160cm



山本眞希「月下美人」2025年
円径60cm

【お問い合わせ】

公益財団法人 古川知足会 古川美術館・分館 爲三郎記念館
電話052-763-1991 FAX052-763-1994(学芸課)
〒464-0066 名古屋市千種区池下町2丁目50番地
【アクセス】名古屋市営地下鉄 東山線「池下」駅より徒歩3分

おやいづ
展覧会担当学芸員 小柳津 綾子 (a_suzuki@furukawa-museum.or.jp)